

成田空港の更なる機能強化等について

令和8年7月13日
国土交通省航空局

1. 成田空港の更なる機能強化について

2018年3月の地元合意に基づき、成田空港の機能強化を実施。

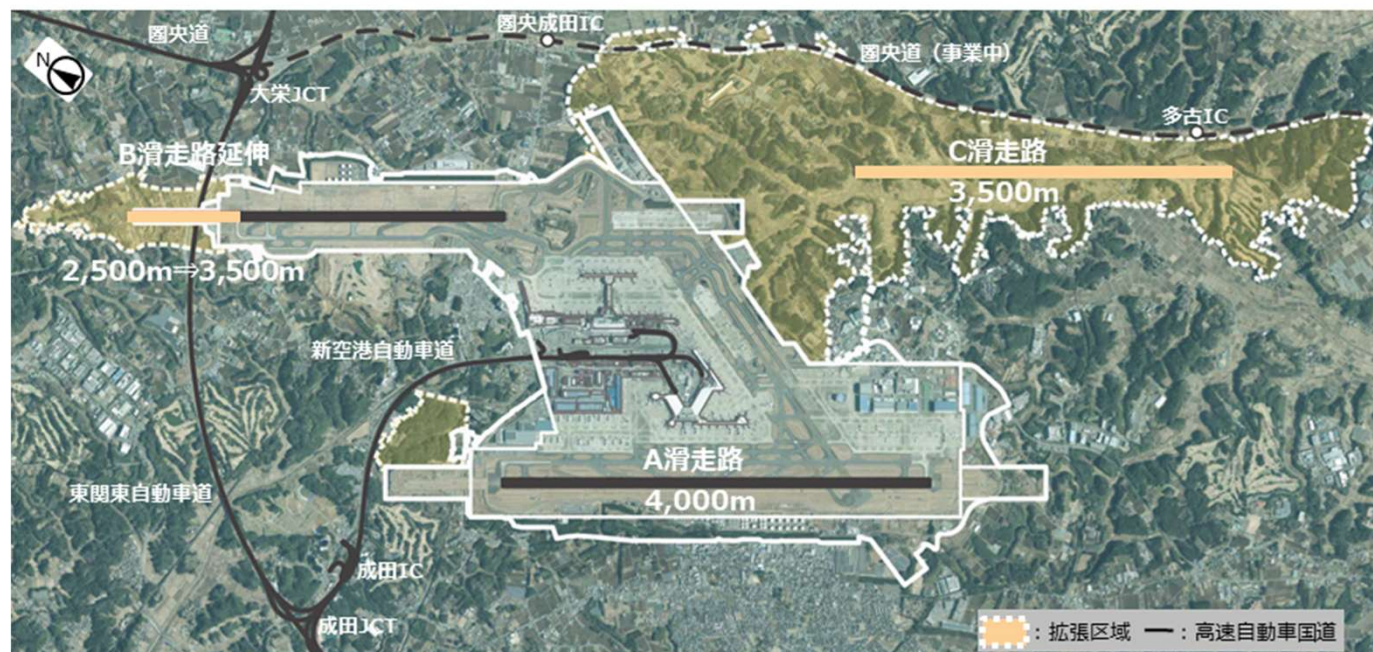
夜間飛行制限の緩和

- 2019年冬ダイヤ(10月27日)より、A滑走路の運用時間を6-23時から6-24時に延長
- C滑走路供用後はスライド運用により、5時-24時30分までの運用を確保

B滑走路の延伸
(2500m→3500m)

C滑走路の新設
(3500m)

→年間発着容量**50万回**を実現
(最大72回/時→**最大98回/時**)



国からの支援

空港整備勘定

出資：300億円（財政基盤の強化）（令和2年度）

財政融資資金

無利子貸付：624億円
(令和3～10年度までの措置。令和8年度予算額：100億円)

財政融資：5,544億円
(令和2年度：4,000億円、令和6年度補正：1,544億円)

成田国際空港株式会社

B滑走路延伸・C滑走路新設
用地取得等
(事業費：約6,400億円)

成田空港の更なる機能強化の今後の進め方

(1) B滑走路延伸部の先行供用

成田国際空港株式会社資料を基に作成

- **B滑走路延伸部の用地確保率は99.5%まで進展。2025年度末に、必要な用地を確保。**
B滑走路の延伸により、大型機の離陸が可能となることで次の効果が見込まれることから、B滑走路延伸部の先行供用を
考えており、千葉県をはじめ関係自治体の皆様のご理解をいただきたい。 ※34万回の年間発着容量等を前提。
 - ・**運航の安全性・安定性の向上**
(A滑走路閉鎖時の代替性確保)
 - ・**長距離便・貨物便の就航環境の改善**
(B滑走路を離陸する機材の重量制限が解消)
- **B滑走路延伸部の先行供用**に向けては、例えば、平行誘導路の整備などの**追加工事が必要**となる。
- これら追加工事等を踏まえ、**2029年度内の供用を目指す。**

1. 長距離便や貨物便の新規就航・増便がしやすい環境が整う。
2. 輸出入ともに貿易額日本一である成田空港における**物流の安定化**を実現。(経済安全保障の確保にも寄与)

➡ **7月10日の四者協議会において当該方針を確認**

(2) C滑走路の供用に向けて

- **C滑走路の用地確保率は89.6%。**
 - **確保に至っていない用地の内訳**

	C滑走路区域 合計
未確保面積	102ha
- 左表には取得にあたり契約の目途が立たない土地を含む
【主な課題の内容】
- 移転補償の考え方への理解が得られない
 - 成田空港の更なる機能強化に理解が得られない
 - 遺産分割協議が難航しているため相続人との用地交渉が進まない 等
- 国や千葉県をはじめ関係自治体の一丸となった力をいただきながら、用地確保の加速化に最大限取り組んできたものの、必要な用地確保に至らない状況にある。
 - **任意の用地取得に向けた努力は継続しつつ、最終的に用地取得を確実にするためには土地収用制度の活用も必要**と考えており、**千葉県をはじめ関係自治体の皆様のご理解をいただきたい。**

➡ **7月10日の四者協議会において「任意取得の取組を継続することと並行して、土地収用制度を活用することはやむを得ないものと受け止める」旨確認**

2. 今後の成田空港施設の機能強化について

今後の成田空港施設の機能強化に関する検討会 最終とりまとめ概要①

1. 検討の背景

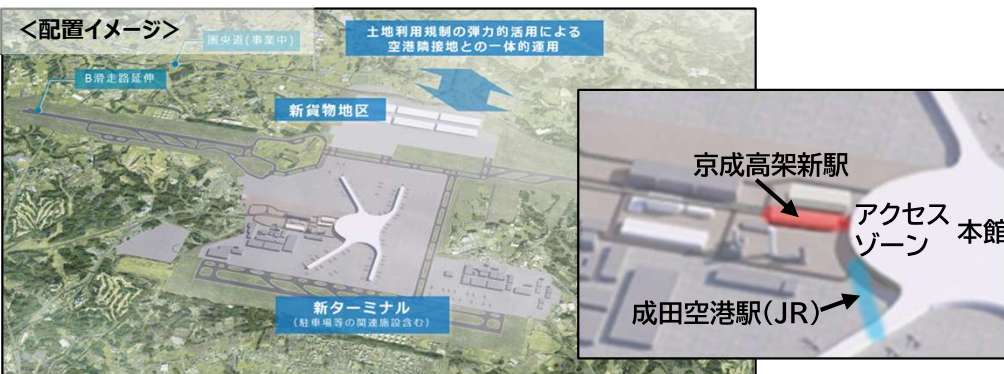
- 成田空港においては滑走路の新增設等を内容とする「更なる機能強化」が進められており、これにより年間発着容量が34万回から50万回に増加。
- これに伴って旅客・貨物の取扱が大きく増加※することから、旅客取扱施設、貨物取扱施設、鉄道アクセスの機能強化が喫緊の課題。

※ 50万回時において、旅客数は年間7,500万人（2025年度実績：4,259万人）、貨物量は年間300万トン（2025年度実績：206万トン）

2. 旅客取扱施設

【配置・形状】

- 集約ワンターミナル方式によるロングピア型の施設整備を目指す。
- ワンターミナル化までの間既存施設を活用しながら段階的に整備。



【機能】

- 旅客取扱施設は空港の顔であり、人・航空事業者等に選ばれ続ける質・魅力を兼ね備えた施設を整備。交通結節点、商業施設・オフィス等の都市機能を持たせ、滞在価値を最大限高める施設展開。
- 鉄道等の二次交通との接続拠点として、駅と直結させて、直感的で分かりやすい動線を確保することに加え、「SORATO NRTエアポートシティ」との連携拠点の役割を担う施設づくりを目指す。

＜新ターミナルと駅の接続エリアのイメージ＞

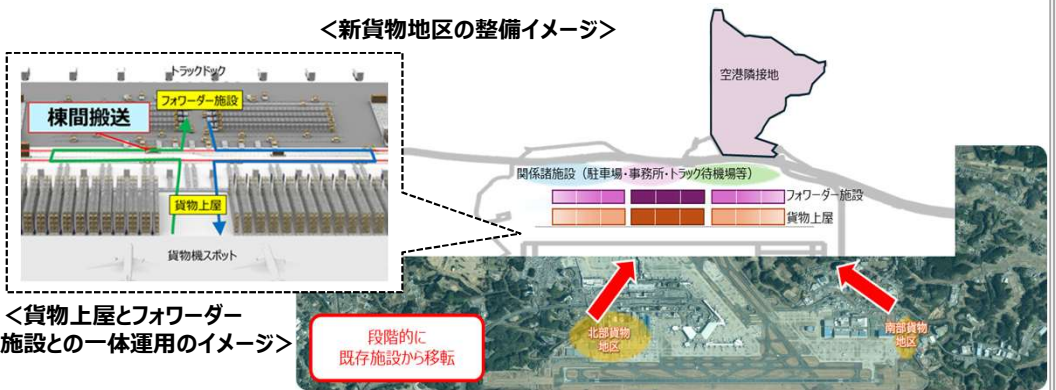


- 世界最高水準の乗継利便性を実現するための新ターミナル内及び新旧旅客取扱施設間への新たな交通システムの導入等を目指す。
- このほか、世界最高水準のDXの導入、ウェルビーイング施設の整備、ビジネスジェット施設の整備、脱炭素化、構内道路施設の整備も実施。

（※） 今後の検討状況や関係機関との協議等により、形状変更等が生じる場合がある。

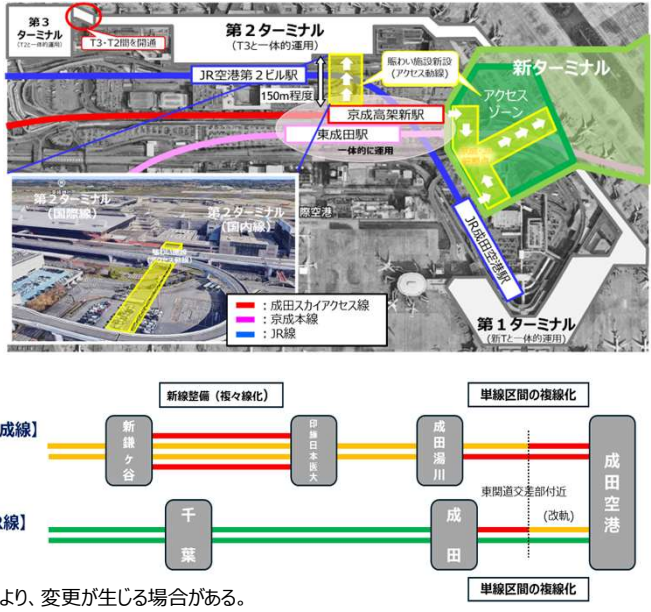
3. 貨物取扱施設

- 【配置】
- 空港敷地内で分散している国際航空物流機能を集約。
 - 新貨物地区と圏央道を挟んで隣接するエリアとの一体的運用を図る。
- 【機能】
- 自動搬送システムの導入など世界最高水準の効率性等を実現。新貨物地区と隣接地、成田・羽田間の貨物搬送の自動化等も目指す。
 - 都心とのアクセス等を考慮した広域道路ネットワーク整備の検討を推進。

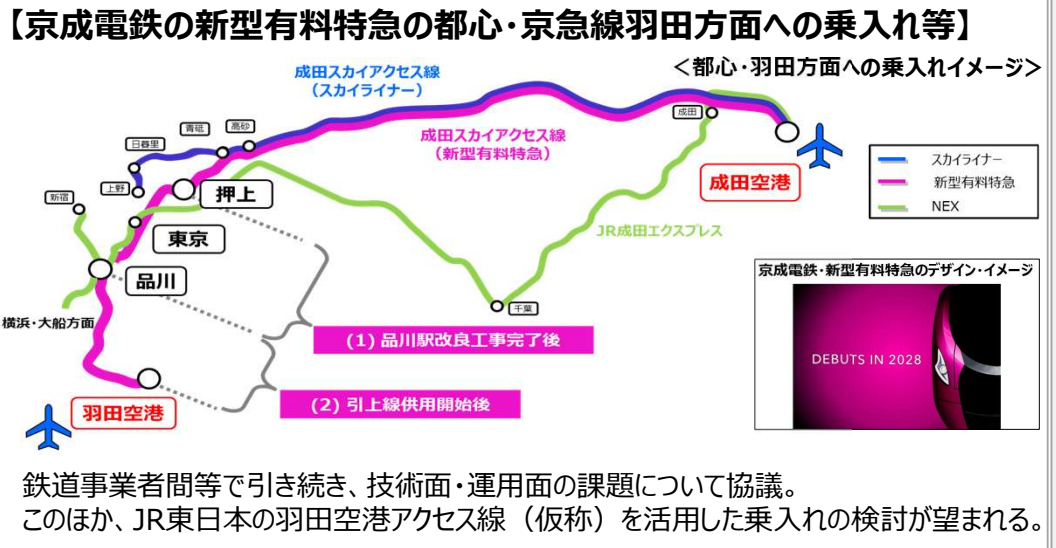


4. 鉄道施設

- 【空港駅の改良等】
- 成田スカイアクセス線について高架新駅等を整備。JR線は両空港駅を活用してホーム増強・両駅間の複線化。
- 【その他の改良等】
- 空港敷地外においても複線化や新線整備等を実施。
- (※) 今後の検討状況や関係機関との協議等により、変更が生じる場合がある。



5. 都心乗入れ



6. 今後のスケジュール

- 更なる具体化に当たっては検討体制を構築し、今後の諸条件の変化を踏まえ柔軟に対応。

